

秦支部・ふれあい訪問は愛宕山地区で対話8名

11月11日(土)午前、秋晴れの下、6名で2グループに分かれて愛宕山地区をひさしぶりに訪問しました。対象となる世帯は約40世帯ですが住所が飛び飛びになっていて、マンションも多くて全部は回り切れませんでした。

しかし全体で25世帯を訪問し、8名の方と対話。保険証を残してという署名と介護保険の充実を求める署名をそれぞれ7筆集めることができました。増資も1件1,000円預かりました。

Aグループでは前日にコロナにかかったばかりの人との対話があったり（訪問者は要経過観察）、Bグループでは「一度も検診を受けたことがない」という93



歳の超お元気な方がおしゃべり大好きで、しばらくお話ししたりしました。

愛宕山地区は、本当に久々の訪問でしたが、こうしてしばらくお会いしていない組合員の方とお話するのはとても楽しいことです。医療生協の入職2年目の若者も1名初参加で刺激を受けたようです。（大鳥理事より）

中村東支部スタート集会

10月29日に中村東支部がスタート集会を開催、26名の参加がありました。

昨年好評だった「みかん狩り」に行きました。

青空のもと、甘くておいしいみかんを味わいながら会話もはずみ、みかんを沢山取っていました。

その後、近くの公園へ移動し交流、参加者がサプライズでキーナの演奏をしてくれました。

そして理事が「生協強化月間に関する〇×クイズ」を作成していて、ゲーム形式で楽しく学習。

あと1ヶ月となった強化月間のことを訴えました。



さかわ支部 月間スタート集会

学習講演は、保健師の波川京子さんによる「フレイル予防」のはなしをしていただきました。ざっくばらんな親近感が湧く話し方で、45分の持ち時間がとても短く感じられました。知人が佐川町にいることも関係するのかもしれませんが。

後半のお楽しみ企画は、9チームによる班対抗輪投げゲーム。レク担当の運営委員が準備よく、テキパキと進行しました。優勝はマナ班、個人賞もあり、上位入賞者から景品をもらっていました。当日に1件の新加入、19件26,500円の増資がありました。



補聴器助成「2023年度から制度創設のための予算要望を進める」(高知市高齢者支援課)

今年4月。土佐清水市・四万十市・仁淀川町・いの町で始まった「加齢性難聴者への補聴器購入助成制度」。6ヶ月経過し各自治体へ調査し4市町の合計で78人から申請があり55人に交付されたことが明らかになりました。高知医療生協も参加する高知県社会保障推進協議会が各自治体への要望と懇談を行った自治体キャラバン。要望項目にある「加齢性難聴者への補聴器購入助成」について高知市の健康福祉部高齢者支援課は11月1日「1,923筆の署名を重く受け止め、令和6年度から制度創設のための予算要望を進めていく」ことを回答しました。(右の3つ目の○を参照)

2023年「医療・介護・福祉の充実を求めるキャラバン」(回答 健康福祉部高齢者支援課)

要求事項	回答事項
<p>【6】 加齢性難聴者への補聴器の助成制度が県内のいくつかの市町村において、施行及び施行の準備が行われている。 高知市で加齢性難聴者への補聴器の助成制度を創設してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 加齢性難聴は、高血圧や糖尿病、喫煙などと共に、認知症の発症につながる危険因子の一つとされており、コミュニケーションがとりづらくなることから、閉じこもり等社会参加への阻害要因とされており、国も研究を進めておりますが、補聴器の導入による認知症の予防効果は未解明な部分が多く、今後の研究結果が待たれるところです。 ○ 本年9月5日、加齢性難聴者の補聴器購入公的制度を求める高知市の会(高知医療生活協同組合気付)から、加齢性難聴者の補聴器購入に対する公的補助制度の創設への、1,923筆の署名の提出を受けております。 ○ 高齢者支援課といたしましては、署名を重く受け止め、令和6年度から制度創設のための予算要望を進めてまいります。 ○ また、難聴を補正する補聴器購入に対する助成は、誰しもに起こりうる身体機能の低下に対する助成であるため、国の責任において実施することが適切であると考えられます。 ○ 本年6月の全国市長会の「高齢者福祉施策に関する提言」の中で、後期高齢者や障害区分に限らず、加齢性難聴者等の軽・中等度難聴者の補聴器購入について補助制度を創設するよう、上程しておりますので、国の予防研究等も踏まえながら、国に対して積極的に働きかけてまいります。